

浄水場の耐震対策について

1. 浄水場耐震対策の経緯と対策方針

- 平成22年度～平成25年度 耐震診断の実施

表1 耐震診断結果

| 浄水場等名称 | 耐震診断結果(※レベル2地震) | 応急復旧必要期間 |
|-----------|---------------------|----------|
| 吉川浄水場 | 液状化して構造物浮上等の甚大な被害。 | 約4か月 |
| 馬淵浄水場 | 液状化発生無し。構造物に局部的な被害。 | 約1か月 |
| 水口浄水場 | 同上 | 約1か月 |
| 南津田導水ポンプ場 | 場内配管の損傷、ポンプ棟の損傷 | 約10日間 |
| 朝国導水ポンプ場 | 沈砂池の軽微な被害 | 約10日間 |

※レベル2地震：琵琶湖西岸断層帯地震、南海トラフ巨大地震に相当する地震
 液状化により甚大な被害が発生する吉川浄水場の耐震対策を優先的に行う。

液状化の発生は無く、構造物の局部的な損壊想定馬淵、水口浄水場については、

吉川浄水場に引き続き耐震対策を進めていく。

- 平成26年度～平成28年度 吉川浄水場基本設計
- 平成29年度～平成30年度 吉川浄水場詳細設計

2. 耐震対策の概要

吉川浄水場 浄水処理施設新設 約96億円

施設規模：給水量 30,000m³/日 浄水処理方式：凝集沈殿+急速ろ過方式

液状化対策：地盤改良

馬淵浄水場・南津田導水ポンプ場 耐震補強 約11億円

水口浄水場・朝国導水ポンプ場 耐震補強 約3億円

3. 耐震対策工事のスケジュール

吉川浄水場

- 令和元年度～令和4年度 土木本体工事、主ポンプ機械設備工事
- 令和2年度～令和4年度 沈殿池・ろ過池機械設備工事、電気設備工事、中央監視設備工事、薬品注入棟建築工事、場内整備工事 等

馬淵浄水場・南津田導水ポンプ場、水口浄水場・朝国導水ポンプ場

- 令和2年度～令和3年度 耐震補強工事(馬淵)
- 令和3年度～令和4年度 耐震補強設計(馬淵・南津田、水口・朝国)
- 令和5年度～令和7年度 耐震補強工事(馬淵・南津田、水口・朝国)



吉川浄水場耐震対策施設配置図